



AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS

THE Y'S MEN'S CLUB OF KOBÉ

THE SERVICE CLUB OF THE YMCA

CHARTERED FEBRUARY 17 · 1930



- ブラザークラブ：高雄（台湾） チェンマイ（タイ） 米子（西日本区）
- 国際会長主題：世を照らす光となろうー恵みを愛もて分かち合おう
- アジア会長主題：歳月はY'sをワイズ（賢者）にするー行動が活力を呼び覚ます
- 西日本区理事主題：先頭に立ってワイズの光を輝かそう、クラブで、地域で、国際社会で
- 六甲部部長主題：柔軟な創造で愚直に積極的なワイズライフを楽しもう
- クラブ会長主題：クラブの伝統を踏まえ、クラブの新しい「顔」を作るべく、それぞれの役割を楽しもう

2013年2月

TOF・CS・FF 強調月間

今月の聖句

あなたがわたしの心に与えてくださる喜びは、小麦とぶどうの豊かな実りにまさるもの。わたしは安らかに床に就き、眠る。主よ、あなただけがわたしを安らかに休ませてくださる。

旧約聖書詩編 第4編7節～8節

2月第1例会 Time of Fast

開会点鐘 18時30分 進藤啓介会長
 ドライバー 長内靖子ネット会長
 ワイズソング
 聖句朗読・開会祈祷

[プログラム]

「神戸 YMCA の今後の東日本大震災への関わり方」

スピーカー：YMCA 主事 松田康之氏

報告および事務連絡など

ハッピーバースディ

閉会点鐘 20時30分 進藤啓介会長

2月誕生日おめでとう

- 6日 美崎 晋
- 7日 井出富光子
- 27日 尾上 美絵

1月在籍者	1月出席者	1月出席率
19名	メン 14名	74%
広義会員	メネット 6名	(含メイヤップ)
0名	コメット 0名	前月出席率
合計 19名	ゲスト 13名	84%
	合計 33名	

1月分BFポイント

切手 0円 現金 0円

本年度累計

切手 0円 現金 0円

2月26日(火)第2例会 19:00～

◎3, 4, 5月例会プログラム確認

◎次期役員体制について

◎その他事務連絡

第2例会でも、重要な議題を協議し決めてゆきます。都合をつけて出席をお願いします。

会長 進藤啓介 副会長 尾上尚司 会計 森 章一
 書記 山本亮司 連絡主事 山本亮司

口座番号 三井住友銀行三宮支店 普通預金No. 1494643 名義人 神戸ワイズメンズクラブ 会計 橋本正晴

例会：第1例会 毎月第2火曜日 18:30 第2例会 毎月第4火曜日 19:00

会長メッセージ 『地域奉仕』

会長 進藤 啓介

異常とも思える今年の寒さですが、春に向かって、希望を持って乗り切っていきましょう。特にこの2月3月は、神戸クラブの足下を固める大事な季節だと思っています。

その最初の2月の例会では、落ち着いた、クラブの今後の課題の一つを見据えた例会を目指したいと思います。2月例会では「神戸YMCAの今後の東日本大震災への関わり方」を聞き、我々神戸クラブにおいては震災復興に向けて何が出来るのか、を考える時を持ちたいと思います。2年経ちました。神戸の経験からも言える事ですが、これからまだ長い道のりが待っています。又、世間一般の注目度も徐々に薄れていくのも、世の常だと思いません。その中で、我々は息の長い支援をしていきたい。これを神戸クラブの課題の一つにしたいと思います。別に目立たな

くても出来ることをコツコツとYMCAとともにやっていきましょう。そのヒントを、今月の例会の中から見つけ出し、クラブとして主体性のある具体的な計画を今年度中に創っていきたいと思います。YMCA活動の良さの一つに、一般の目の届きにくい、ニッチなところでの活動があると思っていますが、そういったスペースにも目を配りながら、クラブの活動を模索するのでもいいのではないかと思います。

3月例会は、我々の住む神戸に目を向けて、今、山口徹さんに企画をお願いしております。この身近なところで「地域の中での我々の新しいスタンス」を探したいと思います。

この2カ月じっくり考えながら春を迎え、その桜の時期にでも新しいメンバーをクラブに迎えたいものです。

クリスマスカードコンテスト

長内靖子

12月5日、長沢さんと神戸YMCAのクリスマスカードコンテストの審査をしてみました。どのカードも楽しく夢があってクリスマスの願いが届きます。モール、リボン、折り紙を貼って立体感を出したり、カードを二つ折りにして工夫を施したり、小さいのによく考えているなあと感じ、一生懸命さが伝わる作品の数々でした。その中から選ばなくてはならない辛さはありませんが、楽しいひとときでした。



ワイズメンズクラブ賞 受賞作品



メネット賞 受賞作品

おしらせ

▼特別講演会「いのちの輝き」

日 時：2月16日(土)正午～午後2:30

場 所：神戸YMCA 4F サイコー亭

講 師：柏木哲夫氏

(淀川キリスト教病院名誉ホスピス長、
金城学院大学学長)

テーマ：「いのちの輝き」

▼Yカフェ

主 催：YMCA会員活動委員会

日 時：2月23日(土) 14時～16時

場 所：神戸YMCA 4F サイコー亭

＜今月の聖句に添えて＞

これは終禱と言ってBed Time Prayerと呼ばれている。一日のプログラムを終え、今や床に就いて休む前の祈り言葉（詩）である。安らかな休みを与えて下さるのは主（神さま）以外には無いと信じ、主にすべてを委ねていた当時の人びとの思いが伝わってくる。

（山根貞夫司祭@神愛修女会・深和ホーム）

2013年1月新年フグ例会

大塚章信

"2013年1月新年フグ例会"と銘打って、神戸・神戸学園都市・神戸ポートの3クラブ合同例会として、YYフォーラム終了後に神戸YMCAサイコー亭で開催されました。

YYフォーラムが同日開催とあって、参加者もゲストに西日本区Yサ・ユース事業主任下村明子さん(名古屋グランパス)、交流事業主任石田由美子さん(宝塚)、六甲部部長上野恭男さん(芦屋)と他クラブ西宮①宝塚②芦屋⑦学園都市⑥神戸ポート②神戸⑩と総勢35名の参加を頂き賑やかな新年例会となりました。

正月気分も残り各テーブルでご挨拶が弾む中18:00神戸クラブ進藤啓介会長のご挨拶と開会点鐘でフグ例会の始まりとなりました。学園都市クラブの佐伯一丸会長の乾杯音頭で宴会はスタートいたしました。フグ刺しの美味しい事！ 芦屋クラブの女性と同じテーブルでしたが、美味しい！と叫んでおられました。今回もフグ鍋の用意は直前会長の鶴丹谷剛さんにお世話になりました。テッサ・から揚げ・鍋・雑炊まで・・・最高に楽しませていただきました。ビンゴゲームも楽しみました。下村主任様にもリーチがかかり当たった！岡山のキビ団子を。石田主任様には、伊勢の赤福餅！とみなさんに喜んでいただき感謝でした。



フグ例会もフィナーレは大野勉さんピアノ伴奏、鶴丹谷剛さん指導でキャンプソング合唱を楽しみ、神戸ポートクラブ会長山田滋己さんの閉会点鐘で閉会となりました。

今年の神戸YMCAの年間聖句は「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」ローマ書12・15です。＜今月の聖句に添えて＞今年も一年、和歌山県深和ホームの山根貞夫司祭にお世話になります。

祈りと感謝を持ってY s活動に励みたく願います。

2013年 神戸YMCA YYフォーラムに参加して

進藤啓介



1月12日に2年ぶりにYYフォーラムに参加しました。今回の企画は六甲部Yサ・ユース主査の森さんの熱い思いが、根っこに強く流れているフォーラムではなかったかと、強く感じました。「YMCAの若いユースと我々ワイズの溝を少しでも狭く、浅くしたい。出会った時、もっとフランクにお互いが気軽に話が出来るとしたい。その中から我々ワイズのYMCAへの、又ユースへの関わり方も見えてくる。」と、云った思いを私は感じました。なかなか難しい事柄であるがゆえに、1回で満足できるものを作り上げる事はなかなか難しいとは思いますが、好ききっかけになったのではないかと思います。

私は、「仕事」の分会で話を聞き、また、させていただきました。ワイズの皆さんの仕事への取り組み姿勢等々皆が熱く話す中、未だ社会人になっていないユースにとって解りづらいところもあったかと思いますが、幾ばくかの参考になったのではないのでしょうか。又、私にとっても先輩の皆さんの話を聞くチャンスを与えられ、今後のワイズの、又YMCAを通じた自分の仕事に大いに参考になりました。

今後も、もっと盛大に、息長く続けていってほしいと思います。



Kobe Menettes

Declared March 10·1965

紫を好んだ母を想う

河合 純子

12月2日アドベント第一主日礼拝に行くと、祭壇の装飾も牧師先生のストールもすべて先月の緑色から紫色に変わっていた。説教の中で先生が「緑は活動と成長を表し、紫は犠牲と尊厳を表します」と述べられた。それを聞き私は43年前に64歳で亡くなった母の事を思い、涙が出て仕方がなかった。紫を好んだ母はこの事を知っていたのだろうか？

長野で士族の家に生まれ、裁判官であった祖父の仕事上、水戸、函館、札幌と巡った後、大阪でランバス女学校を卒業した母は、今の東梅田教会でオルガン奏者をしていた時、千早赤阪村出身の小学校教師の父と知り合い、大恋愛の末に結婚したそうだ。父の二人の妹（私の叔母達）の話からすれば新婚時代は幸せだったのだろう。しかし結婚数年後「小学校の教師に歌子はやれん」と岳父に結婚を反対されていた為か、母にも相談せず2児の父となってから帝大に入学したり、首席卒業後も教授推薦で就職した広島の大企業をすぐ退職し、戦争景気に躍らされ友人と大阪で軍事関係の事業を手懸けて失敗したり、行く先々で浮名を流したり、と母の苦労は私が生まれる前から始まっていたようである。

戦況の拡大で父の郷里へ子供4人を連れて帰ってからの母は、慣れない田舎生活に加え、29歳から後家でこの家を守ってきた姑や小姑に囲まれ、夫は滅私奉公、聖戦完遂を盾に家に殆ど帰って来ない生活を余儀なくされた。幼かった私は「父親とは月に一度雑誌"少女"を持って帰ってくる人」と思っていたし、遠い記憶の中に祖母に連れられて町の家泊まった時、板塀越しに「本宅のお嬢さん？かわいいね」と話す女

達の会話が残っている。船場の"とうさん"として育った祖母の周りでは、それが「男の甲斐」だったらしい。母が東京へ里帰りしたのは祖父の葬儀の時以外なかった。経済的にも無理であったのだろうが、すべて子供達の為の自己犠牲だったように思われる。そのお陰で我々は無口でおっとりの母と、気丈で行動的な祖母の下、物質的には貧しいが、のびのびと心豊かに育った。

母との楽しい思い出も残っている。ある日、兄と姉がリヤカーに小さな足踏みオルガンを載せて帰ってきた。それ以来、我々は冬の長夜など母の弾くオルガンの周りで讚美歌を一杯歌った。教会に行けない母の心安らぐ時間であったようだ。河内弁はめったに使わない母であったが、村の人々からも、ママちゃん、ママちゃんと慕われ、外出には紫系の着物に帯を凜と締めていた。母の尊厳の表し方だったのだろう。庭の花でも「すみれ」や「しおん（紫苑）」を好んでいたのを思い出す。

1970年子宮癌で帰らぬ人となったが、最後まで「お父さんはまだ、お父さんは・・・、」と父を待ち、父と姉に手を取られて逝ったらしい。母が溺愛した長兄も、母っ子の次兄も、末娘の私も海外で間に合わなかった。葬儀の時父は「この妻が居なければ4人の子供は無論、私自身の今日もなかったと思う」と懺悔し、その後26年間母を恋しがっていた。紆余曲折があっても、二人の愛はお互いの心の底では強かったのだろう。我慢強い母の「犠牲と尊厳」の生涯を改めて想った日曜礼拝でした。

